

恵庭岳の火山活動解説資料（平成 22 年 12 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 火口や噴気の状況（図 1～3）

6 日に北海道開発局の協力を得て、上空からの観測を実施しました。山頂東側の爆裂火口では白色の弱い噴気が認められ、これまでの観測結果（前回：2010 年 2 月）と比較して噴気や火口の状況に変化はありませんでした。赤外熱映像装置¹⁾による観測では 2007 年 11 月の観測結果と比較して地熱域の状況に特段の変化はありませんでした。

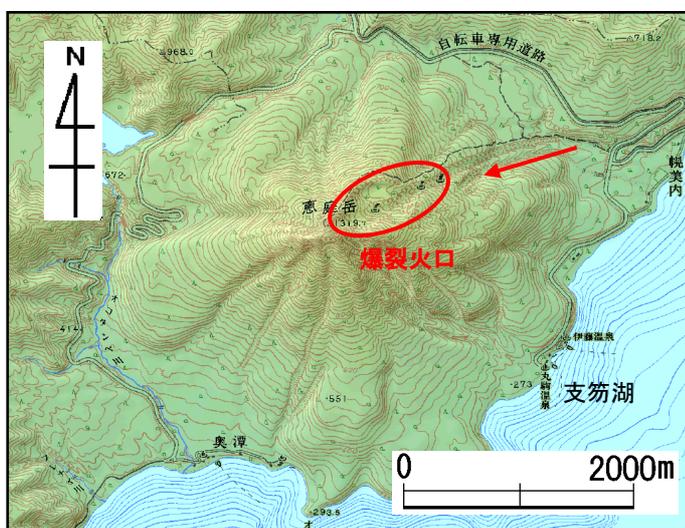


図 1 恵庭岳 周辺図
(矢印は写真及び赤外熱映像の撮影方向)



図 2 恵庭岳 山頂東側の爆裂火口の状況
(12 月 6 日 図 1 の矢印方向上空より撮影
北海道開発局の協力による)

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平 20 業複、第 647 号）。

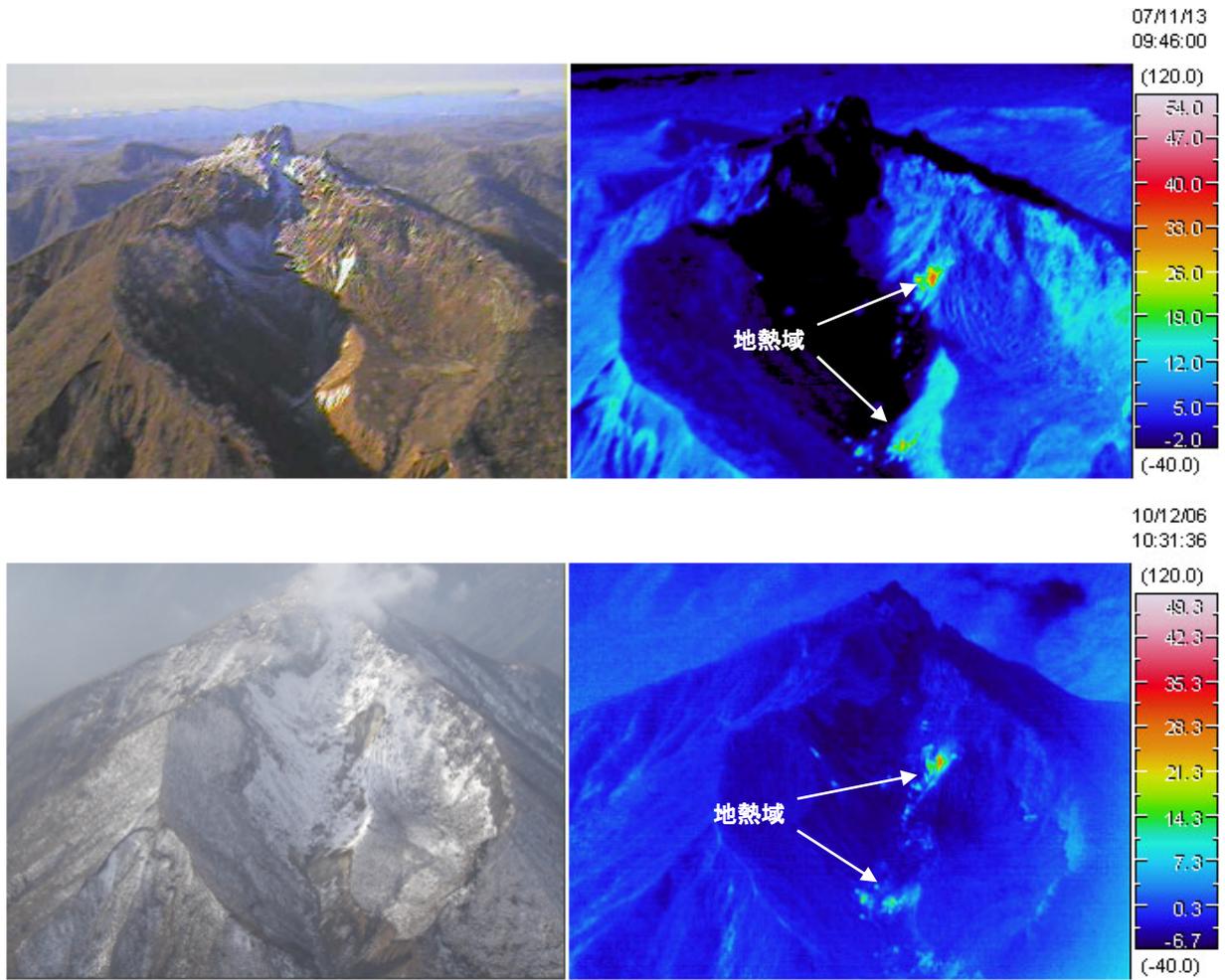


図3 恵庭岳 北東上空 (図1の矢印方向) から撮影した赤外熱映像装置¹⁾による山頂東側の爆裂火口の地表面温度分布
(上段: 2007年11月13日撮影 下段: 2010年12月6日撮影 北海道開発局の協力による)